



# 世田谷区誌研究会 会 報

令和 7 年8月号

NO53

編集人 野岸敏雄  
天海敏彦

連絡先: [kushiken0817@yahoo.co.jp](mailto:kushiken0817@yahoo.co.jp)

ホームページ: <https://setagaya-kushiken.jimdofree.com/>

蝉しぐれが響き、陽炎の立つ街並みの中に本格的な夏を感じる頃となりました。皆さまには、お健やかに過ごしのことと拝察いたします。

2025年、私たちは**戦後80年**という節目の夏を迎えています。1945年の夏、焦土と化した国土のなかで人々は再生の道を模索し、長い歳月をかけて平和な日常を築いてきました。世田谷には軍の施設も多く東条英機や海軍村と多くの軍人のまちでもありました。

8月は、**広島・長崎に原爆が投下された日**、そして**終戦記念日である8月15日**を迎える月でもあります。千鳥ヶ淵や武道館では戦没者を追悼する式典が執り行われ、私たちは改めて、数知れぬ犠牲の上に立つ平和の尊さに思いを寄せることとなります。そしてその一方で、ウクライナや中東地域など、今なお戦火のなかにある世界の現実にも眼を向けなければなりません。平和は与えられるものではなく、学びと記憶を継承しながら育んでいくもの——そのことを噛みしめる夏でもあります。

世田谷公園の一角に「**せたがや未来の平和館**（世田谷区立平和資料館）」や**世田谷山観音寺**という寺院もあります。その世田谷山観音寺について「せたかい45号」の寄稿を添付します。特攻平和観音についての記述です。是非ご覧下さい。

## 講演会報告

演題：世田谷の農業、江戸東京野菜

講師：世田谷区職員 伊藤氏

日時：2024年7月17日

参加者：20名



開催の数日前に台風が発生し、当日は大雨の予報も出ていましたが、曇り空で蒸し暑い一日となりました。天候の影響か、あるいは世田谷在住の会員に農業への関心がそれほど高くないのか、参加者は通常の半分ほどの20名にとどまりました。

今回の講演を通じて、世田谷における**都市農業**の持つ多面的な意義が再認識されました。

### 1、地産地消の観点

「**せたがやそだち**」のブランドが象徴するように、都市の中で生産された野菜が地域の食卓に直接届けられることは、食の安心・安全や新鮮さを確保するうえで大きな意味があります。消費者と生産者の距離が近いことにより、顔の見える信頼関係も育まれます。

### 2、文化・歴史の面

**大蔵大根**に代表される伝統野菜の保存が挙げられます。世田谷区と地元農家は連携してこのような在来種の復興と普及に取り組んでおり、地域の歴史や食文化を次世代につなげる努力が続けられています。

### 3、都市の環境保全

大都市のヒートアイランド現象は**農地がその緩和や雨水**の浸透を促すなど貢献しています。

このように、都市農業は単なる農産物の生産にとどまらず、地域の暮らしや文化、環境を支える重要な存在であることが、今回の講演を通してあらためて確認されました。

講演後のアンケートでは、参加者から「都市の中にも農業の価値があることを実感した」「地元の伝統野菜に興味があった」といった前向きな感想が寄せられました。